

# 悠花さん インタビュー

● 2010年の夏コミでイベント特典として頒布した「悠花さんインタビューCD」を文字に書き下ろしたものです。

CD内では悠花さん作品をBGMにインタビューを行ったので、BGMについても書いてあります。

## ■自己紹介

BGM…キャンドル（ほしがたり  
のそら）

同…こんにちは！

悠花（以下「悠」…こんにちは

同…本日はお越し頂きありがとうございます  
でございます。

同人音楽同好会（以下「同」…こ  
んにちは、同人音楽同好会の  
みやわです。今回初の試みと  
して、音声インタビューを行  
いたいと思います。早速イン  
タビューに移りたいと思いま  
す。

悠…こちらはこそありがとうございます  
です。

同…まずは、自己紹介・サークル  
の紹介をお願いします。

悠…はい、ロータスルートオー  
ケストラの悠花と申します。  
時々歌ったり、作曲したり、  
あとは時々作詞と稀に編曲を  
やったりしています。

同…ありがとうございます。同人

同…本日はロータスルートオーケ  
ストラの悠花さんにお越しい  
ただきました。

音楽活動はいつ頃からされて  
いるのでしょうか？

悠…2007年の秋M3ですね、

個人サークルとしてではな  
く、所属していたゲームサー  
クルでそれまで録り貯めてい  
た歌を一つのアルバムにまと  
めて、それが「琥珀の遺骸」  
なんですけど、そちらを出し  
たのが最初となります。

BGM…「やわらかな種」のテー  
マ（琥珀の遺骸）

同…悠花さんは楽器を演奏されて  
いたというイメージはありま  
すが、昔から曲を作られてい  
たというイメージはありませ  
ん。いつ頃から音楽の製作を  
されるようになったものでし  
ょうか？

悠…中高とずっと吹奏楽部でオー  
ボエを吹いていまして、その  
ころは確かに作曲はしたこと  
がなかったんですけど、ただ

## ■作品について

BGM…アカツキデカダンス  
(monophobia)

同…さて次は作品について、とい  
うことで、ご自身のサークル  
で10を超える作品出されてい  
る悠花さんの作品についてお  
聞きしたいと思います。

同…他の方が作曲し悠花さんが歌  
われるものであったり、悠花  
さんが作曲して他の方が歌う  
ものだったり様々なCDを  
悠花さんは作られています  
が、コンセプト・タイトルな  
どはどのような順番で、また  
どのような時期から構想して  
作っているのでしょうか？

悠…コンセプトを最初に作って、  
そこからという感じですね。  
その後は順番は色々なんです  
けども、CDのタイトルと曲  
のタイトル両方、入稿直前に  
つけるっていう癖があります

悠…コンセプトを最初に作って、  
そこからという感じですね。

悠…構想は始める時期は様々な  
～

ですけれど、「ソネットの憧  
憬」とか「ジルコニア」とか  
は半年以上前から構想を始  
めていましたけど、「ガーンネッ  
ト」とか「新宿十三丁目」と  
かはイベントに受かったのが  
分かってしばらくしてから構  
想、っていう感じになってお  
りますね。なのでぎりぎりな  
のもあり、それで最短なのは  
「コミティアで限定頒布した  
「SweetTweat」というのがあ  
るんですけど、1週間前に急  
遽作ることにしたっていうそ  
ういうそんなぎりぎりのCD  
でした。

同…1週間ですかwすごいですね  
（笑）

同…「鈍色ジルコニア」では多く  
の楽曲で他の様々な方が作曲  
し、「monophobia」では逆  
に悠花さんが作曲された曲を  
他の方が歌うような形、現在  
流れている「アカツキデカ  
ダンス」も中恵光城さんとあ

携帯で昔は音が入力できる時  
代があったんですよ（笑）。

同…はい（笑）

悠…その時に自分の携帯だけじゃ  
なくて、友達の携帯に耳コピ  
で、当時簡単なものしかでき  
なかったですけど、軽く曲を  
打ち込んでみたりはしていま  
した。

悠…その後に、大学時代に友人と  
路上ライブをちょこっとして  
いまして、その時にちょうど  
シンガーソングライターとい  
うのがすごい注目されている  
ときで、なんか曲を作るのも  
面白そうだなと思ってメロ  
ディだけ作って、アカペラで  
歌ってましたね。

悠…今かけて頂いているのが友達の  
友達の卒業制作の「カイロと  
大サーカス」というアニメー  
ションに使って頂いたもので  
す。ちゃんとホントに動くア  
ニメーションで、私も実は少  
し声で出演しているという作  
品になっていて、そういった  
ものを最初作っていて、次第  
に同人音楽のCD作りになっ  
ていったという感じです。

悠…実はその時歌っていたのが、  
「琥珀の遺骸」に入っている  
「sakura」と「ガーンネット」  
に入っている「きよしこ」で  
（笑）

悠…ただ当時コードの知識が一切  
無かったので、もうほんとに

たいわだれかさんが歌われるという形でしたが、これはどういったところからこうなったのでしょうか？

悠：「monophobia」は作曲にほとんど専念したという感じなんですけど、最初、「鈍色ジルコニア」というアルバムは半分は自分が作曲してどなたかに歌って頂いて、半分はどなたかに作曲頂いて自分で歌うという形にしようと思っていました、色々なスケジュールの関係上で、ジルコニアの方が自分で歌うだけという形になったという経緯ですね。

BGM：はびば（ノートの余白）

同：さて、ここからはCafeChiffonの話に入りまじゅ。CafeChiffonの「ノートの余白」ですが、歌い方がいつもと違う、とくにこの曲「はびば」で違うように感じ

られましたか、これは意識されて行ったことですか？

悠：シフォンの曲については3人サークルなので、他の2人によるディレクションが収録当日にありまして、ちょっといつもと違ってオシャレ系でということ。息の量を多くという指示で、ああいった感じになりました。ディレクションはして頂くとだいぶ変わりますね。

悠：だいたい収録前にだいたいこんな感じかなというイメージは作ってはいくんですけれど、当日ブースで歌ってみて、その後に細かい指示を頂くというのが多いですね。

悠：同じく、「ノートの余白」に入っている「あまやどり」は最初歌ったときに私の個人の「新宿十三丁目」っていうブルースな感じの曲っぽい歌い方で歌ってしまつて、即ツッコミが入るといふ感じでした。

ね。

悠：自分の企画CDのときはだいたい、レコーディングエンジニアやコンボーザさんと話し合つて決めていくという形が多いですね。

悠：ただどちらかというと企画とか作品のコンセプトとかそっちの方が重要な気がしているのであんまり歌い方とか歌の立ち位置とかは自分の中では実はそんなに重要じゃないのかなあと思つていまして、その作品にあつた歌い方が出来れば悠花さんらしさとかそういうのは必要ないと思つています。

同：CafeChiffonのサークル、また「ノートの余白」のコンセプトはどのようなものでしょうか？

悠：サークルのコンセプトとしては「カフェミュージック」をイメージしたユニットとなつ

ておりまして、結成は2009年9月に参加させて頂いたライブの後に、かなつきさんからお誘いがありまして、ひろさわ君と私がそれに賛同して3人ユニットをやるうっていう形になりました。

悠：最初「電波ソングをやるか」みたいな流れに一瞬だったんですが、それは無くなりまして、今のこういった形に落ち着いています。

悠：「ノートの余白」については、常連客という名前になつている私が、カフェシフォンにお茶を飲みに来ている他のお客さんを観察して、妄想したものをノートの余白に書き留めた、という設定のもと歌を作っています。

同：電波ソングですか。それはそれで面白そうでしたね。

悠：まあ、いつか（笑）

同：CafeChiffonの次回作の予定は？

悠：秋M3で発行できたらと思つています！がんばります！

同：どのような作品になるかはもう決められているんでしょうか？

悠：今回はマスター、かなつきさんの過去を掘り下げていこう企画になりつつあるので、前作よりも少し大人っぽくなる可能性ががありますね。

同：それは楽しみです。

悠：ありがとうございます。

BGM：愛玩住宅（FrizzellWeizen）  
同：さて、ご自身のサークル「ロータスルートオーケストラ」以外の作品の話ですが、Middleslandさんの作品「FrizzellWeizen」での「愛玩住宅」は悠花さんのいままで歌つてこられた楽曲とは、だいぶ異なるように思いまし

た。何か作詞の面、歌う時の面で、今までとは違う、何か意識された部分などはありませんか？

悠：作詞は、いつも 最初曲を聴いてそこからイメージで作っていく感じなんですけれども、割と単語をわーつと書いていって、その後インター

ネットで類義語辞典とか辞典系で他の言葉を探していつて、文字数に合わせてバズルのように入れていくっていうのが多いですね。

悠：そこまでの意識はしていませんが、イメージ的には「昭和のぼろアパートの男女」という設定で書いていました。

悠：歌うときは、吐き出す感じというのをイメージして歌いましたね

悠：紫さんのように力強く美しいボーカルはわたしにはとても無理なので、別の視点から中島さんの曲へアプローチでき

たらいいなと思つてこういう歌い方になりました。

同：Middleslandのボーカルと言えはやはり紫さんなわけですが、この作品は中島さんの楽曲への新しい発見があり、悠花さんの歌声に対してのイメージも広がりました。

悠：ありがとうございます！中島さん最高！

一同：笑

同：作品と言つことで、ここでお聞きしますが、夏の新譜「タナトスの誘惑」はどのようなコンセプトの作品でしょうか？

悠：ぶっちゃけますと、サイトとかには全く出していないですけど不老不死の美少女がヒロインなギャルゲの仮想イメージCDです（笑）

同：おー（笑）  
悠：今後も表では言う気はないです（笑）

同：このCDを聞いた人のおみいう感じですね

悠：はい特典です（笑）

同：今回は朗読のトラックもあるよう、いくつか違った悠花さんの一面が見られるのではと、楽しみにしております！

悠：ありがとうございます。「おまつりのよる」以来、久しぶりに朗読をするかたちになるんですけども、実は高校時代は放送部に所属しておりまして、そちらで朗読とかとかドラムをやっていたので、また機会があれば朗読とかナレーションとかそういうのもできればなと思つています。

■ライブについて

BGM：corpse of a castle（鈍色ジルコニア）

同：作品に関してはここまでにして、次はライブに関しての話に移りたいと思います。

同：さて、ライブについて（2010

年) 5月にSight Sounds27  
6月のFilea Thera、7月に  
深水チエさんとCafeChiffon  
さんでのライブと3カ月連続  
でライブに出演され

同: 8月、このCDの収録の前  
日ですがサポートとしてラ  
イブに出演され、9月には

ABSOLUTE CASTAWAY さん  
主催のライブ・11月にも蒼咲  
雫さんと、UjAgeさんとの  
ライブの予定があるそうです  
が(当PDF公開時には終了)

同: このようにライブが続くよう  
になったきっかけというのは  
あるのでしょうか?

悠: いろんなサークルさんがライ  
ブをたくさん始められたっ  
ていう流れが昨年(2009年)  
くらいからあるんじゃないか  
と思っておりまして、たまた  
ま昨年2回、ゲストボーカル  
参加を含めれば3回ライブに  
出演させて頂いたことあるの

で、多少経験者というのも  
あって声をかけて頂けている  
のかなと思っておりますが、  
実際のところはまだまだ全然  
初心者でご迷惑をかけてばか  
りのみでございます。

同: いやいやそんな

同: いままでやってきたライブで  
一番緊張したというような印  
象に残ったライブはなんで  
しょうか?

悠: やはり最初の2009年3月の  
アルビノライブ、中恵光城さ  
んとベクトルと3サークルで  
やったライブは、始めて自分  
がスタッフとしても、出演者  
としても出てかなり緊張もし  
たし、大変だったっていう  
意味で、印象に残っているイ  
ベントですね。

同: このライブが初めてだったん  
ですね?

悠: 小っちゃいライブっていうの  
はその前にもあるといえあ

るんですけど、ロータスとか  
悠花さんとかそういうもので  
はなく、本名で2曲くらいと  
か、そういうので参加したこ  
とはあります。

同: なるほど

悠: 今かけて頂いている corpse  
of a castle なんですが、実は  
こちらアルビノのライブで一  
曲目に歌った曲でして、その  
時は「ラララ〜」で歌って  
いたんですが、それに歌詞を

付けて、シロさんにアレンジ  
頂いて、曲として完成したも  
のなんですけど、意外とイコー  
ルになっている方が少ないと  
いう事実を知りまして、この  
場を借りて「実は同じなんで  
すよ」と宣伝させて頂きたい  
と思います(笑)

同: 1年半の間に、ある程度の大  
きさのライブハウスであつた  
り、喫茶店であつたり、行わ

れたライブの形式も様々です  
が、その中でもそれ以外でも  
今後やってみたいライブの形  
はありますか?

悠: 私はアコースティックとか、  
ジャズ系とか、喫茶店とかカ  
フェバーとかそういうところ  
で歌っていただけらなあ…とい  
う願望があります。

悠: 常時一緒に出来るようなメン  
バーができたらいいのですが  
ね、…

同: ライブでオーボエやリコー  
ダーを吹かれていましたが、  
これはどこで習われたもので  
すか?

悠: オーボエは先ほどの通り吹奏  
楽部に所属していたので、そ  
こで何年かは言いませんけ  
ど(笑) 多少ブランクがあり  
つつ続けています。リコーダ  
については小学生以来、中学  
校にもアルトリコーダーあつ

たっけ? それ以来久しぶり

に吹きました。ホントに実は  
久しぶりに吹きました。星語  
りも実はリコーダー生なんで  
すけど、1時間前に急遽練習  
してそのままさくつと録っ  
ちやたんですね(笑)

悠: 指使いがオーボエとソプラノ  
リコーダーのジャーマン式は  
結構似ているので、その辺で  
適当についていう。わりと指使

いが曖昧でもリコーダーって  
音が出るので凄く便利だと思  
いました(笑)

悠: 笛系の楽器は、自分がオーボ  
エやっていたのでイメージで  
きやすいので、ギターとかも  
実はひっそりと練習している  
のですけど、上達がすごく遅  
くて、それよりもやりやすい  
ですね。今年中には、フルー  
トを始めたかなと思ってい  
て、是非オーボエとかフルー  
トでも誰かオケに参加させ  
て下さい、と宣伝してみたり

(笑)

同: それは楽しみですな

悠: 今のところオーボエは、光城  
のところとかしかないんだっ  
け? あとは「King」ですね、  
あまり他サークルさんのところ  
で吹いたことはないのです  
もうちよつとうまくなつた  
ら、読んで頂けたら嬉しいで  
す。

同: 宜しくお願いします!

### ■交流関係

BGM: アンダーライト

同: さて他の方々との交流に関し  
ての話に入りたいと思いま  
す。

同: 悠花さんはかなり多くの方と  
親しくされている印象がある  
のですが、その中で今BGM  
で流れているアンダーライト  
と一緒に制作されていた感傷  
ベクトルの囁一さんと特に親  
しい印象があります。何を  
きっかけに親しくなられたん

でしょうか?

悠: ベクトルは、2年前の春M3  
で、わたしもベクトルも実は  
落選しておりました、私は  
remotの柚智さんに声をかけ  
て頂いて、そこで委託と売り  
子をしておりまして、その時  
に視聴スペースで聴いてくれ  
たしよーいちくんが来て下  
さつて、そこでちよつとお話  
してCD頂いて聞いてみた  
ら「おーこれはすげえ!」と  
思つて、すぐに声をかけて、  
その後とんとんとアンダーラ  
イトの製作に入りました。

同: なるほど、アンダーライトは  
その後の夏にすぐ出されてい  
ましたら、すぐに組まれて作  
られたんですね。

悠: そうですね。

同: 他に親しい方は?

悠: イベント以外でオフでも会う  
という方はこれからちよつと  
増やしていきたいなと思つて  
いるんですけども、やっぱり

悠: いやいやいやいや、ほんと聞  
くのが楽しいです(笑)

悠: 私ネットで人に声をかけると  
いうのがホントに苦手で、イ  
ベントだったら、対面だつた  
ら話しかけることができるん  
ですけど、ネットで「始めま  
して悠花と申します」という  
のがどうしても怖くて出来な  
いチキンでした。最近はい  
ぶ改善されてきて、やっぱ  
きっかけはtwitterとかで割  
と話しやすい環境が出来たの



で、それをきっかけに今までホントイベントでご挨拶しかしたこと無かったサークルさんと、twitterを通じてその方のことを知れたり、お話しできてまた何が変わっていくのかなという気はしています。

### ■個人について

BGM・新宿十三丁目（新宿十三丁目）

同：ここからは悠花さん個人についての話に入りたいと思います。

同：悠花さんの作曲のベースになっていると思う音楽はどのようなものでしょうか？

悠：昔からいろんなジャンルを聞いてきたので好きなアーティストさんを上げていくとかなりきりがなくなってしまうですね。

同：それでは、歌う上でのベースになっている人や歌い方など

はありますか？

悠：少しだけボイトレに通っていたことがありまして、仕事のストレス発散で通っていたというそんな事情だったんですけど（笑）その時にとにかく「歌い上げるな！語るように歌え！」って怒られていたので、それがもたになっていきますね。

悠：よく昭和っぽいとか、小室哲也さんの曲を歌っていたあの時代の皆さんとかモー娘。っぽいとか、そういう系が似合いますとか、時々言われます（笑）

同：モー娘。ですか（笑）。歌い方だけでなく、悠花さんがモー娘。的な歌を歌われたら面白いですね（え

悠：いいですね（笑）誰か作ってくれば是非（笑）自分じゃ作曲ムリかなと（笑）

同：（笑）  
同：昭和と言つと「新宿十三丁目」。

対象が昭和に生まれた方とありますが、これはどういった理由からでしょうか？

悠：ネタです！（笑）

悠：特に意味はなかったんですけど、なんか面白いことがしたくなっちゃたんです。ただ残念ながらわたしは今まで自分の中ではネタにしたつもりが、分かって貰えないと言うことが多々ありまして、今年のエイプリルフルもエイプリルフルネタとしては後から考えると分かりづらいエイプリルフルネタだったという。

悠：シフォンの特設サイトを一日だけ公開したんですけど、実はCafeCottonというものを知らないとかギャグになっていなかったという、大変なことが後で発覚しまして、周囲から非常につつこまれました

同：今後のネタとかギャグとかの

成長に期待ですね（笑）

悠：ギャグ楽しみにしていて下さい、これから向上していきます（笑）

同：頑張ってください（笑）

悠：ありがとうございます（笑）

### ■エンディング

BGM True End（タナトスの誘惑）

同：さて、インタビュ어도終盤に入って参りました。

同：悠花さんは休みの日などは何をされていますか？

悠：ははは（笑）リアル仕事の休みの日に曲を作ったりしているので、主に引きこもり

同：（笑）

悠：あとは、誰か声をかけてくれれば、外に出ますが、一人でいるときに外に出たりというのは残念ながら減多に無いです、そんな寂しい人です。

同：趣味が音楽みたいな感じですか？

悠：趣味が音楽・・・物作りですかね？音楽に限らずものを作るのが好きなんだと思います。

同：同人音楽はどのようなものを聞かれますか？

悠：交換ごによごにも含めいろんなサークルさんのCDを聞かせて頂くんですけど、買う方でもありまして14時以降くらいになると、結構スペースをふらつと出て、挨拶アンドお買い物巡りに行って、スペースにいないことも多いですね。

悠：特にピアノの音が好きなのでピアノアコースティック系の曲が聴聴で多かったサークルさんとか、ピアノが入っている打ち込み系とか、そういったサークルさんは結構目を付けてこれだ買うぞって行って、たまに2時になるとやっぱり売売してて泣く泣く

通販待ちとか、そういったこともある感じですね。

悠：やっぱ朝一番に出られないっていうのがサークル側としては辛いところですね。

同：そうですね。今後の展開・野望などは？

悠：今後も細々と活動できたいいなと思っています。すごくマイペース人間なので、自分のマイペースを崩しちゃうとやーめたとか言い出すおそれがあるので、これからもムリしない程度に楽しんでいたらと思っています。

悠：あとは野望としては、数年前からずっとなんですけど、ギターとかピアノの演奏や作曲の出来る方と一緒に作ったリアアコースティック系とか一緒に出来たらいいなーと思いつつなかなかそれに至らない、振られ続けて数年みたいな（笑）

悠：そんな感じなので、できればどこかでそういったものが出来たらいいなと思っております。

同：ありがとうございます

同：それでは最後にリスナーに一言お願いします

悠：こんなわたしですけども、これからもできる限り頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

悠：こういったジャンルの曲を作つてとか歌ってほしいというご意見お待ちしています！結構高確率で反映されます。笑

悠：実はこのシングルもロックが聴きたいっていう声から作りました。

同：ありがとうございます！